

何時になったら解消するのか！ 本人の同意がない休日出勤！

会社は、4月13日の「平成24年度要員計画」の業務委員会で、「昨年の新幹線の休日出勤は計画通り2～3泊程度で推移。今年は2泊程度の見込み」との見解を示しました。誰もが「今年は去年よりマシになるだろう」と思ったに違いありません。しかし、7月の休日出勤実績は、新幹線・東京第一運輸所全体で123名、東京第二運輸所でも61名でした。昨年同月のゼロ日と比較すると異常に増えています。

この間会社は、「休日出勤は早期に解消していくスタンスである」と説明していました。ところが一転、今春の業務委員会では「休日出勤がゼロになることは想定していない。波動のピークになる所での要員を考えない」と、休日出勤を前提で業務を遂行していく、ともとれる考え方を示しました。これでは、まさに休日出勤ありきです。

ところで、なぜ波動のピークでもない7月に休日出勤が異常に増えたのでしょうか。これでは「解消」どころの騒ぎではありません。もし、この調子で推移したら、今年度の休日出勤は会社のいう「1人2泊程度」では済まされません。

もちろん、私たちは、休日出勤そのものを全て否定するつもりはありません。問題なのは、本人の同意なしに一方的に休日出勤を強要することです。そしてそのことがもう何年も継続していることです。「休日に出勤しても良い」と希望する社員もおりますから、そのことを問題にするつもりはありません。あらかじめ定められた休日（特休、公休）を会社が一方的に出勤させることが問題なのです。

このような異常事態になっている原因は、明らかに要員不足としか考えられません。会社は、列車運転本数を確保できる「車両数」はそろえますが、乗務員＝「人」は確保しようとはしません。人間は物以下なのでしょうか。要員が足りなければ休日出勤をさせれば良い、というような会社の対応に納得ができません。皆さんは如何でしょうか？

東一運の7月休日出勤実績
昨年ゼロに対し、今年123名！